

平成24年度香川大学入学式 学長告辞

みなさん、入学おめでとう。

今日、1,320 名の新入生を迎えて、香川大学はまた一段と晴れやかで活気があります。香川大学を代表して諸君を心から歓迎します。

さて、昨年は東日本大震災があり、被災地を中心に日本の国および人々は、物心両面で大きな痛手を受けました。我々は、改めていのちの尊さ、人は自然の中で生かされているのだという本質に気付きました。若者の多くが被災地に入り、ボランティア活動を行ったり、遠隔地でも彼らの出来る支援活動を始め、被災者の力になろうとする大きなうねりが起こっています。大震災は不幸な出来事でしたが、弱い苦しい立場の者に手を差し伸べるという日本人の美德を呼び起こし、自らが主体となって、日本人の生き方や社会のあり方を動かそうとする若者の心を揺さぶり、目覚めさせました。

被災地に主体的に関わった高校生のアンケートでは、“大学生活を無駄に過ごしてはならない、大学で学ぶ目的を真剣に考える”という答えが圧倒的に多かったと報告されています。香川大学の学生の中にも、自分がやらなければならないという意思と行動が示されつつあります。本日、入学した諸君は、日本の将来を託された人材であることは間違いありません。諸君は在学中に、これからの日本のあり方を真剣に考え、思索を深めて、諸君の心に眠っている能動的な心を鼓舞していただきたいと思います。

さて、諸君は、大学で何をしようと考えているのでしょうか。ある会社の面接試験で、最も大学生活で印象に残っているのはとの問いに、99%がサークル活

動、バイト、旅行、恋愛と答えるといいます。これでは余りにも大学生活が寂しい。諸君は卒業する時に“学士”という称号が与えられます。与えられるには、学士力を身につけねばなりません。いろいろ習得すべき知識・技量がありますが、要するに諸君が社会に出た時に必要な一般教養と専門知識です。

そして、私は、諸君に在学中の学修を通して、知識を得る楽しさ、学問の奥深さに気付いて欲しいのです。我々の一生は、つきつめれば毎日が学修の継続なのです。本気で行った勉学・学修は決して人を裏切りません。

次に、大学が諸君に与える最大の資源は、時間です。大学で過ごす4年または6年間は、人生の中で最も自由な自己を形成する時間であり、各人が生涯の節目で生き方を見つめ直す貴重な時間です。学生生活で、多様な生き方や異文化に接し、他の文化を理解し、自分の価値観を形成して下さい。そして、時代や社会の風潮に流されない批判性と創造性を身につけて欲しいと思います。

尊敬する師・先輩、生涯の宝になる友人を得るのも良いでしょう。読書も思考力や感性を養うのに大いに推奨します。そして、多くの事を体験し、感動して下さい。若き日の感動は、将来いつか諸君が大きく飛躍する礎になります。

ここまで話してくると、諸君の学生生活が無限の可能性を秘めている事に気付くと思います。学生生活の貴重な時間をどの様に使うか諸君の才覚にかかっています。

ここで私から香川大学の学生になった諸君に特に申し述べたい事があります。それは、新たな一步を踏み出した今、社会規範を守った責任ある行動や生活習慣を常に意識し実行して下さい。本日、この時から諸君は、香川大学のゼッケンを背負った香川大学人であることを自覚して下さい。

最後に、香川県は温暖で自然災害も少なく、美しい瀬戸内海、栗林公園、それに讃岐平野に田園風景が広がり、おいしいものが多く、外から見ると最適な学修環境とされています。東京では体験出来ない、香川の地ならではの学生生活を楽しんで下さい。

諸君の健闘を祈ります。

平成24年4月4日

香川大学長 長尾省吾